

研修報告

『2022年度 研修部企画研修』

◆テーマ：『クライアントの声を医療ソーシャルワーカーはどう受け止め支援するか』～小児がんサバイバーかつ新人ソーシャルワーカーの経験を通して～

◇日時：2022年8月4日（木）18：30～19：45

◇内容：【講義】

小児がんサバイバーと新人ソーシャルワーカーという2つの立場を当事者として経験した講師より、クライアントに寄り添う・クライアントの人生に関わることについて実際の体験と実践経験から講演を頂いた。

■名古屋医療センター 入退院支援センター：入江 真依 氏

◇参加人数：47名

◇アンケート

コメント紹介◇ ～一部抜粋～

- 小児病棟の担当となってまだ間もない中で、患者さんとソーシャルワーカー、双方の視点、そして“想い”をお持ちの先生からのお話、とても勉強になりました。知識を蓄えることも大事ですが、自分がなぜソーシャルワーカーになろうと思ったか、原点に立ち返ることも大切だと感じました。明日からも、患者さんにできることを考えて頑張っていこう、と思わせてくださる研修をありがとうございました。
- 今回の研修では、ソーシャルワーカーの原点ではありますが、当事者のメッセージに耳を傾けながら業務をすることの大切さを改めて思うことができました。入江さんの話が、借りてきた言葉ではなく、入江さん自身がこれまでの人生で思い巡らしてこられたであろうことを入江さん自身の言葉で表現されている内容で、とても心に入りました。「当事者性」と「(MSWとしての)専門性」をうまく行き来されていることもすばらしいと思います。
- これまで支援に当たる中で、どうしたら患者や家族にとってより良い生活になるかという事を考えていた。「こうなったら患者さんが嬉しいんじゃないか」という視点は初めて知ることができた。また高齢の患者様で若い頃に患った古い既往歴を目にすることがある。これまでは「若い頃から治療されているんだな」くらいにしか考えていなかった。その当時どんな闘病生活だったのだろう、それを経験したことでその患者様にどんな影響があったのだろうと考えを深めることで更にその人の事を理解するきっかけになるのかもしれないと思った。
- 今回の研修を通して、患者に疾患があったとしてもその人らしく生きていけるように支援することが大切であり、MSWに求められる大事な視点なのだと学ぶことができました。また、「あなたの話をちゃんと聞いているよ」と受け容れようとする姿勢をみせることは、患者の思いや考えを整理する一助になるのだと学びました。

研修部企画研修について

研修部 川上 博臣

当初予定していた定員を超える参加希望があり途中増員をするほど関心の高さが伺えました。講師自らの患者としての経験とソーシャルワーカーとしての実務というテーマで、時にそれぞれの立場を歩き来しながらお話いただき、参加者も同時に想像を巡らせながら考える貴重な研修となりました。参加者も新人からベテランまでまんべんなく集まり、ソーシャルワーカーとしての「クライアントを受け止める」基本に立ち返り、再考する機会になったと思います。